

目白・雑司が谷・高田 地域

○日 時 平成 21 年 11 月 19 日（木）午後 7 時～午後 9 時

○会 場 雑司が谷地域文化創造館第 1 会議室

○区民参加者 18 名（別記一覧）

○区側出席者

区 長	高野 之夫
教育長	三田 一則
政策経営部長	横田 勇
総務部長	小野 温代
区民部長	齋藤 賢司
文化商工部長	東澤 昭
清掃環境部長	永田 謙介
保健福祉部長	大門 一幸
子ども家庭部長	吉川 彰宏
土木部長	亀山 勝敏

○司 会 政策経営部政策調整担当副参事 齊藤 雅人

区 民 参 加 者 一 覧

雑司が谷三丁目町会	町会長	市川 宣迪
高田中央町会	町会長	江原 延一
目白二丁目町会	町会長	佐藤 道衛
鬼子母神通り商店睦会	会長	建持 直樹
目白商業協同組合	理事長	鈴木 謙一
区民ひろば高南運営協議会	監査	鈴木 英三
郷土史研究家		矢島 勝昭
目白バ・ロック「第二幕」企画準備委員会		筒井 一郎
雑司が谷地域文化創造館	館長	安田 百合
民生委員・児童委員協議会 高田地区	副会長	津村 正信
第4地区青少年育成委員会	会長	田本 豊子
目白駅周辺地区整備推進協議会	会長	平林 秀敏
目白街づくり倶楽部	代表	柴田 知彦
目白駅周辺の環境を守る会		小野 英彰
南池袋小学校PTA	会長	石渡 弘美
高南小学校PTA	会長	武内 淳
千登世橋中学校PTA	会長	保坂 靖人
東京音楽大学	事務局長	原山 耕造

主なご意見・ご要望の要旨と回答

(※以下、枠内がご意見・ご要望、枠外は区からの回答として整理しています。)

○地域のコミュニティについて

・自分が子どもの頃と違って、近隣との関わりが薄らいでいる。昔は近所のおじさん、おばさんに注意されたが、今になってみるといいことだと思う。大人一人ひとりが、例えばごみの捨て方を守るなど、自分のことばかり考えるのではなくみんなのためになるような、子どものお手本になるような大人になってほしい。それが一番文化的なことだと思う。

○目白駅周辺の整備について

・長年の懸案だった目白駅前整備が3月に終わった。歩道幅が1m拡幅され、電柱がなくなって歩道幅が倍になった感じがする。街路灯も商店街できれいにし、防犯カメラを6基設置し、ひと段落した。警視庁にも反対されたが、横断歩道も設置したところ評判がよい。

商店街では、ビルを建ててオーナーになり、テナントを入れるケースが増え、横のつながりが希薄になった。大きいチェーン店では店長が2、3年で変わり、イベントの手伝いにもなかなか出してもらえない。

今後のビジョンとしては、商店街のまわりの道の整備、ライトの小路などの整備をしてもらうことと、コマースの跡地に肉・魚などの生鮮食品の店かスーパーなどが入るとよいと思っている。

・目白駅の整備はよくできた。横断歩道について、第四建設事務所に交渉し、なんとかつくってもらえ、みんな喜んでいいる。

今後の課題は、ライトの小路の整備である。JRと話し合いはしているようだが、まだ文書になっていないと聞いている。進捗状況を聞きたい。

コマースの跡地は、NTTの高い建物を建てる計画が白紙に戻ったということであるが、その後どうなったのか、わかった段階で知らせてほしい。

○目白におけるコミュニティ道路整備について

・街づくり倶楽部は、まちづくり協議会のワーキンググループとして目白駅前広場からとりかかり、ライトの小路について地域発信で取り上げてもらった。自分たちのまちを自分たちでつくっていくことができるのだという勇気を地域全体に与えてもらった。

目白には、調べると小さい地域資産がたくさんあるので、それを回遊路でつなげばよい。名前を付けて、コミュニティ道路として整備したらよいと思う。その第一段が、ライトの小路である。

街づくりバンクの援助を受け、仮称目白古道の研究をしている。山手通りか

ら目白駅の近くの、リそな銀行のところまで続いている目白通りと平行している通りがある。この道は車の通り抜けに使われているが、本来は目白の背骨のような重要な道である。コミュニティ道路として整備し、地域の生活空間として、あるいは景観づくりとして沿道づくりを進めていきたい。来年度、国の助成を受けて更に進めていきたいと考えている。景観計画を自分たちの沿道でつくって、区と一緒にまとめていくという方法を考えているので、ぜひ協力してもらいたい。

ライトの小路は、JRと協議しているが、いろいろな課題があり、まだ協議にかかる。一番の難点は狭い道路なので、工事に支障があるということ。JRは山手線が運行しているので、相当慎重である。しかし、この道の整備はどうしてもやらざるを得ない。目白通りがきれいになったので、それに接続する区道もきれいにしなければならないとJRにお願いしている。

本区道の整備計画については、今年の3月には地域の皆様に事業説明会を開催し、ご意見を伺ったうえで、詳細を決定させていただく予定でした。しかし残念ながら、皆様に広くお知らせするためには、計画素案を策定するお時間ももう少しいただかなければなりません。この区道における歩行者等の安全性を向上させるため、JR東日本の理解と協力を得ながら、道路をJR側に拡幅させていただくと事業内容に関して、この「拡幅する形体」および工事の方法等について、自動車通行や沿道に生活されている方々への影響、鉄道の旅客輸送に対する安全の確保、工事の時間、本事業にかかる経費などの諸点において、区とJRの協議が難航しております。

いずれにいたしましても、事業の進捗状況等に対する情報のご提供につきましては、沿道の皆様をはじめとして、これまでご協力をいただきました地域の方々には行っていかなければならないと考えております。もう少しお時間をいただき、こちらからご連絡等をさせていただきますので、なにとぞご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

土木部長 亀山 勝敏

区でも、目白街づくり倶楽部の「目白古道コミュニティ道路化計画」の活動については以前より関心を持って伺っています。今回「景観計画」を、とのことですが、本区は景観行政団体ではないため計画策定主体は都の所管になります。ただし、地域のルールとの趣旨であれば、『景観地区』や『地区計画』は、区が都市計画決定できる仕組みになっています。今後の調査や活動の進展状況に併せて、こちらの制度の活用もご検討いただければ幸いです。

都市整備部長 増田 良勝

○目白バ・ロック「第二幕」の企画準備について

・目白バ・ロック音楽祭は、2005年にスタートして4回開催した。4回を第一幕として、次の第二幕に向けて多くの挑戦と、多くの失敗と成功を整理しているところである。壁にぶつかった経験などを豊島区内で活躍されているプロデューサーの方々に伝える場を設け、そこで交流し、一緒に第二幕をつくっていくことができたらと期待している。

音楽祭としては、2009年3月に「第一幕」を閉幕し、現在は第2幕に向けての準備期間と認識しております。今年度は、文化観光課において、目白バ・ロック「第二幕」企画準備委員会に委託する形で、地域の文化プロデューサー同士の連携と文化産業のビジネスモデルを起こすことを目標にセミナーと交流セッションの準備を進めております。こうした取り組みの積み重ねが、次のステップへと着実に繋がっていくことを期待しております。

文化商工部長 東澤 昭

○景観のよい道路整備について

・コマースの跡地の建築計画に反対する人たちが集まってできた会。問題が起きたことで、今まで知らなかった人同士が仲良くなって、地域のコミュニケーションができた。

目白小の建て替えを機に目白通りを考えてはどうか。目白駅前付近から千登世橋への道はいちょう並木が続き素晴らしい景観である。学習院大学の椿坂がうまくいって評判がいい。目白通りも同じ地区計画の範囲に入れてはどうか。ルールができて、よくなるのではないか。また目白小の裏を通っている道も整備して、木を植えしやれた道にすれば、あの辺りの価値が上がるのではないか。

目白通りのいちょう並木の話は、文京区から豊島区につづけて整備してもらおうよう第四建設事務所に強く申し入れていきます。

土木部長 亀山 勝敏

平成10年の目白駅周辺の地区計画決定前に、学習院大学や目白小学校を含めた区域で検討がされました。土地利用等に相違があり、都の同意が困難との判断から現在の区域に至っています。今後の地区計画の適用につきましては、以前に出前講座等でご説明申し上げた、街づくり推進条例に基づく権利者等からの申出による展開が望ましいと考えます。

都市整備部長 増田 良勝

○鬼子母神参道のけやき並木の保全について

・鬼子母神参道のけやき並木は樹齢400年を超えたりっばな木である。その中の1本が2~3年前から枯れてしまった。残りの3本も心配である。参道は、大

きな石を引きつめてコンクリートを流して固定させているが、根がのびて大きな石を持ち上げてくる。そこを重い自動車を通るため、道路が壊れ、区に何度も修理してもらっている。しかし、木のためになるようになることは何もしておらず、このままで放っておいていいものか。環5の1が開通したら、重い自動車を通さないようにしてもよいのではないか。

鬼子母神参道のケヤキ並木には、東京都の天然記念物に指定されている木が4本あります。この樹木の管理については、都教育庁地域教育支援部 管理課文化財保護係が窓口になっておりますので、ご意見をお伝えします。

御影石舗装のガタつきにつきましては、周辺住民の皆様にご迷惑をおかけしておりますが、その都度補修をさせていただきます。また、重車両の通行制限等については、環5の1開通後の状況を踏まえ、関係機関と調整を行い検討していきたいと考えております。

土木部長 亀山 勝敏

○商店街の活性化について

・雑司が谷は4つの商店街がある。副都心線の開通イベントで、地元の商店街の意識も変わってきて、全体で何かをやろうというゆるやかな連携ができてきた。それを具体化したのが四商店街のマップである。全部の店舗名を入れることによって、各店舗に参画しているという意識改革に役立っている。区から補助を受けて、ぜひ来期も作らせてもらいたい。

・副都心線が開通したとき、商店街がシャッター通りになるのではないかと言われたが、それならシャッターの前でフリーマーケットを開いてにぎわいをもたせようと、みちくさ市を開いている。「わめぞ」という古本関係の団体が運営している。鬼子母神境内で開かれている手作り市というフリーマーケットと一緒にやることによって、より大きなインパクトを与え、ずいぶん人が来ている。間のけやき並木のところが抜けているので、町会や区で間を埋めてもらえれば、大きなイベントになると思っている。

雑司が谷地域の四商店街の皆さんが平成20年度に実施した「地下鉄副都心線雑司が谷駅開業記念事業」は、マスコミにも数多く取り上げられ、雑司が谷の魅力在全国に発信できた素晴らしい事業でした。地元の皆さんはもとより多くの方の関心を集め、約2万人もの来街者がイベントに参加されました。

この事業の成功は、四商店街同士がはじめて連携して事業を実施したことに加え、町会をはじめ地元の多くの皆さんの協力があったからこそであり、こうした商店街同士の連携の深まりは、平成21年度の「雑司が谷四商店街イラストマップ作成による商店街活性化事業」として、引き続き四商店街が連携して事業を実施したことでも明らかです。

商店街同士の連携や町会をはじめとする地元の皆さんの協力を得て行う事業は、今後の雑司が谷のまちづくりにも大きく貢献するものと考えられますので、地元商店街を含めた雑司が谷全体のますますの発展を目指して行う事業を今後も区として積極的に支援していきたいと考えております。来年度の商店街事業につきましては、都の補助制度を活用しながら、マップ作成を含めた販売促進事業として支援してまいります。

文化商工部長 東澤 昭

○雑司が谷の歴史を伝える標識の設置等について

・十数年前、高田小の5・6年生と雑司が谷を通る鎌倉街道を歩き、生徒たちに投票してもらい鎌倉街道高田道という名前を付けたことがある。江戸時代の歴史研究家の手により、細かく通り道を書き残されたものが、忘れ去られないよう子どもたちに雑司が谷の歴史とのかかわりを教えた。日出小跡地の西側も通っていた。新庁舎建設にあわせ、同敷地の西の道（街道筋）に大きな地図の石碑を建て、小型の道案内も街道の要所ต่างๆに配置してはどうかと思う。江戸の人々が残してくれた文化遺産を目に見える形として道案内の標識に採用してほしいとかねがね思っている。

○南池袋小周辺の安全確保について

・南池袋小は3つの学校が統合してできたため、学校に通うのに少数で遠いところから通ってくる子もいる。寺町で墓地があってさみしいところなので、事故があってはいけないと週1回パトロールを行って丸4年になる。そのたびに学校の会議室で話し合いの場を持ち、学校とも情報交換している。子どもたちの親とも知り合いになり、感謝してくれている。今後もぜひ続けていきたい。

・パトロールをしていて気付いたのは、この地域は児童館がないこと。旧高田小が空いているので、ロビーのところでもよいので、子どもたちが遊ぶ場所として使わせてもらえるとよい。

・街路灯のライトが暗い。ライトをもう少し明るくするか、数を増やしてほしい。

児童の見守りにお力添えをいただきありがとうございます。南池袋小学校の児童のためにパトロールを4年も継続されているとのこと、深く感謝申し上げます。子どもたちは、地域の中で見守られ、地域の中で育っていくものであり、子どもが安全に暮らせる環境を守るためには、なによりも学校と保護者、地域の皆様の連携が重要であると認識しております。教育委員会といたしましても、地域に信頼される学校運営を支援してまいりますので、今後とも、子どもたちを暖かくお見守りくださるようお願いいたします。

教育総務部長 佐藤 正俊

旧高田小学校は将来的には近隣公園として整備する計画となっておりますが、それまでの暫定期間、児童及び保護者同伴の幼児に対して、校庭を遊び場として開放しています。ご提案のロビーについては人の出入りがあるため、安全管理上、開放することは困難ですが、子どもたちには校庭でのびのびと自由に遊んでもらえればと考えています。校庭開放時間は、平日・休日・時季によって異なります。

文化商工部長 東澤 昭

街路灯は基準に基づいて設置しておりますが、ランプの経年劣化や樹木が茂って光をさえぎることにより暗くなっている場合がございます。

ランプを交換したり、樹木の枝を剪定したりすることで、大幅に改善されることがありますので、具体的な場所をお知らせください。調査の結果、設置が必要な個所につきましては、近隣のご了解を得た上で検討してまいります。

土木部長 亀山 勝敏

○幸福度世界一のまちづくりについて

・この地域に住んでいる人の幸福度が、世界第1位であるデンマークに負けないうことになることを願い、第4地区の奇跡として、5年後の新聞記事というかたちで話をさせていただく。

「豊島区に幸福度世界1位を目指し、ついにデンマークを超えた地域がある。発端は5年前に開催された地域ビジョン懇談会。そこで出会った40～50代のメンバーをコアに、まずは幸福度上位にいる北欧各国の地方都市を模倣しながら、地域の独自性を出してみようと研究グループが発足した。ほとんどがそれまでまちづくりには無縁だったメンバーだ。折しも社会起業が話題になった時期でもあり、第二の人生の目的として数々の事業が提案された。3年目には福祉と教育のトップとして指定を受ける。北欧がシステムとして福祉、教育を充実させているのに対し、豊島区第4地区の特徴は地元住民の地域への熱い思いをベースにしていることだ。認知症の老人と知的障害者が一緒に暮らすグループホームの隣にある飲食店の軒先では、共働きの両親を待つ小学生たちがお好み焼きをつつきながらホームの住民と笑いあっている。向いの公園は一面の芝生で中高生がフットサルを楽しんでいる。そこには都会の寂しさと程遠いどこかなつかしい風景が広がっている。3万人余りの住民の95%が幸せと感じる豊島区第4地区の奇跡がそこにあった。」

今回のビジョンには合っているかわからないが、5年後ということに一つの夢を持って参加させていただいた。

○東京音楽大学と地域の協働について

・豊島区と6大学の包括協定を結んでいて、コミュニティ大学として様々な講

座を開催している。ぜひ多くの地域住民の方に参加してもらいたい。

今年、神戸女学院大学、昭和音楽大学と一緒に三大学連携で音楽を通じて地域のリーダーシップを育てるというプロジェクトを出して文部科学省で採択された。テレビ中継で合同講義を行なう。地域のみなさんにどうしたら音楽を通じて交わってリーダーにいろいろなことをご紹介できるかをテーマにした学問である。

今年の学園祭には、学生自治会が企画して、地域の方たちにもぜひ自分たちの音楽を理解していただきたいということから、吉本興業のフットボールアワーにきてもらった。地域の方々に関心をもってもらいたいという学生たちの心意気を買っていただきたい。

区内大学との協働で開催している「としまコミュニティ大学」事業も3年目を迎えました。東京音楽大学では、打楽器講座、イタリア歌曲講座、オペラ入門講座等を開講し、多くの区民が受講しています。今後も、大学の特性を活かした魅力あるプログラムを展開していくとともに、学生のみなさんにも参加していただけるような運営のあり方についても検討してまいります。また、大学主催で行われている地域に向けた各事業についても、豊島区として後援等、引き続き支援させていただきたいと考えております。

文化商工部長 東澤 昭

○高田地域のまちづくりについて

・副都心線の開通により、池袋から渋谷への路線バスが減車した件について、昨年の地域ビジョン懇談会で区長にお願いしたところ、いの一に交通局に要望してもらったおかげで、4月からほぼ元に戻った。

自分たちのまちは自分たちの力で守ろうと、特養ホーム山吹の里もあることから、町会や近隣の大手企業、例えば大正製薬や白十字などと災害時の支援活動の協定を締結した。これは、全国で初めてである。2年後には、ビックカメラや明治安田生命も加わり、地域ごとに支援しようということに規約を変え、まち全体で助け合うということになった。来年早々に役割分担などを話し合う。大正製薬は積極的に支援するといってくれている。

中外製薬の跡地に建ったマンションが、明治通りに入るのに道が狭いので困っている。マンションの人と一緒に目白警察署に行き話をし、看板をつけてもらうことになった。また区の土木部に話をし、ペイント等を作ってもらった。このような活動が、一人ひとりのまちづくりにつながるのではないかと思い、話をさせてもらった。

○町会の加入促進について

・町会の加入の件で困っている。293世帯入れるマンションに現在120~130世

帯しか入居しておらず、そのうち町会に入っているのはたった3世帯である。来年の国勢調査で変わってくるかもしれない。3棟あるマンションのうち2棟には、管理組合に町会費の一括納入をお願いしているが、未だ進んでいない。今後の町会のあり方、進め方で苦勞している。

近年、核家族化の進展、中高層マンションの増加などにより、町会の加入率が低下しており、町会活動への住民意識・関心が薄れてきていることが危惧されております。

町会は、主体的、自主的に、地域の防犯、環境美化対策など、日常生活をめぐる諸課題解決に向けて多くの負担を担っていただいております。区といたしましても、町会加入率の低迷を訴える町会の現状を踏まえ町会活動の活性化を促し、以って地域コミュニティの形成を促すため、加入率向上に向けて積極的な支援に取り組むことを考えております。

まず、本区では、平成21年3月の第1回定例会で「豊島区中高層住宅建築物の建築に関する条例」が改正され、平成22年1月1日より中高層集合住宅の町会加入に関する事前協議の義務化がスタートいたします。対象となる建築物は、今後新たに建築される中高層集合住宅で、地階を除く階数が3以上で住宅数が15以上のものです。

また、既存の町会未加入の中高層集合住宅などについても、町会からの要請に応じて、同行訪問を行い町会加入に関して区の立場から理解を求めるなど支援策を講じてまいりますので、併せて皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

区民部長 齋藤 賢司

○児童虐待防止対策について

・今月は虐待防止月間である。いろんな部署のPRが行き届いてきたためか、虐待という言葉がある程度認知されてきた。民生・児童委員は防止が主で、対処は東部子ども家庭支援センターや児童相談所が行なう。どこまでが虐待かという判断が難しいが、言葉を発せられない弱い子どもを守っていききたい。

最近のマンションはオートロックで入ることができない。高層マンションは外から見ることもできず、見守りが難しい。

虐待する保護者も何か問題を持っている。保護者、家庭も含めて支援していきたい。温かい目で地域が見守っていくのが大事である。

民生・児童委員の皆様には、地域の子どもと保護者への支援に日々ご尽力いただき、心より感謝申し上げます。「虐待」に対する認知が進んでいるのも皆様の活動の成果によるところが大きいと感じております。虐待など子どもに対する保護者等からの不適切なかかわりへの対応で最も大切なことは、一刻も早く気づき、適切な支援をすることと継続的に見守っていくことです。そのためには、子どもや子育て家庭に対し、日常的に地域の温かい目が注がれているこ

とが大きな力となります。区といたしましても、民生・児童委員の皆様と連携を強めつつ、地域の皆様のご協力をいただきながら、引き続き子どもを虐待などの人権侵害から守るための取り組みに力を注いでまいりたいと考えております。

子ども家庭部長 吉川 彰宏

○まちづくりへの参加促進について

・月に1度校庭に行き、子どもと遊ぶボランティアをやっている。お父さん、お母さん、地域の人々の様子が見えてくる。人間が守っている、作っていることを強く感じる。この地域を支えている方と次の世代へのバトンタッチが難しい。目白のように商店街があるところとは違って、住宅地が高田の特徴。歴史のあるまちをどうやって守っていくか。まちの将来像を考えながら、親を巻き込んでいくことが大事でだと感じている。

○中高生も遊べるような公園について

・学習院大学のおかげでビオトープがある。この地域は緑地があまりなく、最大の緑地が学習院。

以前、子どもと凧揚げをしようとしたとき、目白小学校の校庭ではできたが、それ以外の場所では、凧揚げができなかった。区内の公園では球技も禁止している。子どもたちはどこで発散すればよいのか。

みんなが集まれて憩える場所があるとよい。中高生が落ち着ける場所がコンビニと、先日実施されたディベート大会で高校生が真剣にそのようなことを言っていた。緑地、公園など何かそういうものがあるとよい。

公園・児童遊園は本来、区民の福祉の増進と生活文化の向上に寄与することを目的に設置された、緑と共にある屋外施設であり、その利用によって心身の健康、子供達の健全育成、地域のコミュニティの発達など、さまざまな効果が期待される施設です。

中学生・高校生にも伸び伸びと遊び、発散してもらいたいのですが、大変残念なことに、豊島区内には都立公園などの広い公園がなく、区立公園は面積が狭小なものばかりです。どちらかといえば、幼児や小学生までの利用に適した広さといえます。ボール遊び等も他の利用者との住み分けができないため、キャッチボール場以外ではできないことになっています。

ただし、戸外で座って和気あいあいと話したり、お弁当を食べたり、地域の方と触れ合ったりと、コンビニエンスストアやファミリーレストランにはないものが公園にはありますので、そういった面で中高生にもぜひ利用していただきたいと思っております。

土木部長 亀山 勝敏

○雑司が谷地域文化創造館の運営について

・雑司が谷地域文化創造館は、利用者が限られていない。オーケストラが2つ、劇団が3つ入れる施設で、若者でにぎわい、土日は子どもが集まってくる。市民オーケストラの間では人気の施設である。備品費を利用者からとらないこともあり、東京中から集まってくる。人が集まると情報が集まり、コミュニケーションもできる。単なる貸施設ではない。地域の方にぜひ利用してもらいたい。職員も利用者と交流することを楽しいと思っている。区の職員ではないからこそできることもある。

地域文化創造館は、施設の指定管理者である「としま未来文化財団」との協定に基づき、各館においてそれぞれ特性を活かした事業展開を図っております。また、地域住民の方々との連携・協働を図り、地域コミュニティの活性化にも努めてまいります。

文化商工部長 東澤 昭